

プラチナサポート情報共有メール

No.	682	配信日	2026/4/30	ジャンル	商品知識
テーマ	～ 奥深い切手の世界 ～				

皆様、切手にどのようなイメージをお持ちですか？たくさんお持ち込みいただく機会が多く、「枚数を数えるのが大変」「額面の〇〇%で仕入れるもの」等、お客様がなぜ切手を収集しているかの深掘りや、切手に対する知識の勉強が後回しになっていませんか？今回はそんな切手について深掘りをして、セールストークに繋げていくことでお客様への権威付け、今日売る動機の後押しとして役立てていただければと思います。

1. 日本の切手収集の歴史

1871年に前島密（まえじま ひそか、「日本近代郵便の父」と称される明治時代の政治家・実業家）により、日本初の切手【竜文切手】が発行され、1894年には日本最初の記念切手【明治銀婚記念切手】が発行されました。

切手収集流行のきっかけ：1957年に江崎グリコがキャラメルのおまけとして「世界の切手をあなたに」のキャッチフレーズで切手を封入したことで、日本の切手収集ブームが爆発的に流行し、1970～80年代に学校などで切手収集の流行はピークを迎えて、記念切手の発売日には郵便局に列ができるほど人気を博しました。

もう一方で趣味としてではなく、投資目的での切手収集もブームを迎えます。1964年に切手経済社という会社が発行した「切手でもうける本」をきっかけに「記念切手を発行時に買っておけば儲かる」と思込む人が増え、時代の節目やイベント時（東京五輪や琉球返還等）に発行される切手に当時の大人たちは注目して、こぞって切手を買集めたとされています。

その後1990年以降は子供たちの娯楽（ゲーム、漫画等）が増えたこと、メールやスマホの普及によるはがきや手紙の需要低下で切手自体の需要も減ったことで、今では切手収集人口は多くありません。

ですので、今買取店に切手をお持ち込み頂いているお客様は 1950年代～1980年代に子供時代を過ごした現在の50歳代～80歳代のお客様か、投資目的で収集した切手がお家の中で眠っていたお客様がほとんどです。

2. 知っていておきたい有名切手



【竜文切手（1871年）】



【明治銀婚記念切手（1894年）】



左：【見返り美人（1948年）：菱川師宣】→



右：【月に雁（1949年）：歌川広重】

3. お客様に使えるトーク

例）切手収集は今の若い人たちにはわからないと思いますが、1950年代のグリコのおまけから爆発的に流行したんですね。当時私が子供だったら必死に集めていたかもしれないですね。ただ、今だとメールやスマホの普及で切手自体の需要も年々減少しており、今後も需要低下に伴って時間が経つにつれ買取価格も下がっていく予想になります。売却をお考えなら今この瞬間が最高値ですので是非ご売却くださいませ。